

平成26年度 学校評価（中間期自己評価）

1 目指す学校像

「HARD SPIRIT 貫徹精神」の下、幅広い知識と教養を身につけ、逞しく豊かな心身を培い、郷土や我が国さらには国際社会の発展に貢献する志を涵養し、国際人として大局的な視点に立って行動できる人間を育てる学校を目指す。

2 本年度の教育目標

①学びの習慣の確立と学力の向上

生きる力につながる確かな学力の定着を目指し、学びのプロセスとしての学習習慣の確立と共に学びの結果としての学力の向上を図る。

②特別活動と部活動の充実

逞しく豊かな心身と他者との協働を喜びとできる「睦み」の心の育成を目指し、社会性、協調性、主体性を育てる特別活動と部活動の充実を図る。

③キャリア教育と地域貢献の推進

社会の中で自己の在り方生き方を見つめ、社会に貢献する志の涵養を目指し、キャリア教育や道徳教育を推進すると共に、生徒、保護者、地域社会に開かれ、地域社会に貢献する教育活動を推進する。

④英語運用力の向上と国際交流活動の推進

上記3点の育成を基盤としたその上に、国際人としての知性・感性を備え、大局的な視点に立ち、日本の内外の問題に対する正しい理解に基づいて行動できる人間、すなわちグローバルリーダーの育成を目指し、英語運用力の向上を図ると共に国際交流活動を推進する。

3 評 価

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	今後の課題	対策
1 学びの習慣の確立と学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習調査の実施時期と調査内容を再考する必要がある(学習の質を測る内容とする)。 ・各教科における週明けテストの意義を再確認する必要がある。 ・読書の意義を啓発することも含めて、読書習慣の継続を図る。 ・読書活動に対する評価指標の見直しを図る(量から質への転換)。 ・センター試験における国語・数学・英語3教科の全国平均と校内平均との差が拡大している。指導法の改善とともに教科での協働的対応を講じる必要がある。 	1年 <ul style="list-style-type: none"> ①家庭学習90時間/月 ②週明けテストの合格率100% ③国・数・英3教科総合の平均点偏差値50.0以上 各教科の平均点偏差値53.0以上 ④図書貸出数1000冊/年 	<ul style="list-style-type: none"> ①進路実現ノートの活用を徹底する。 ①②③課題提出の定着を図る。 ①②③④学年通信の定期的発行と内容の充実を図る。 ②③実践の結果を随時周知し、課題の克服と競争意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①平均家庭学習時間 中間調査終了2週後99分/日 期末調査1週間190分/日 平常時3時間以上/日13名(4.7%) 平常時2時間以上/日77名(27.6%) ②各教科の合格率(2回実施) 英語93% 数学88% 国語92% ③7月記述模試 3教科総合平均点偏差値49.3 3教科総合平均点偏差値60以上17名 平均点偏差値50以上122名 国語52.2 数学48.1 英語48.7 ④7月末現在469冊 	<ul style="list-style-type: none"> ①課題の取組、テスト勉強が不十分である。 ・課題をただ終わらせることが先行し、学習内容が定着していない。 ・予習の仕方を具体的に指示できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①週末課題・予習プリントへの取り組み方を指導し、提出を徹底させる。 ・小テストを実施し、基礎学力を定着させる。 ・1学期の既習事項も週明け課題に交えて忘却防止を図る。 ・予習ノートを用意させ、予習の仕方を指導し点検を行う。 ・予習時間を記入させ、教科の学習時間を意識させる。
		2年 <ul style="list-style-type: none"> ①家庭学習100時間/月 ②国・数・英3教科総合の平均点偏差値50.0以上 各教科の平均点偏差値53.0以上 ③図書貸出数1000冊/年 ④読書感想文コンクール入賞10名以上 	<ul style="list-style-type: none"> ①進路実現ノートの活用と生徒への声掛け。 ・家庭学習時間調査を定期的におこない、ホームごとの調査結果を学年全体に提示していく。 ②学年、教科の取り組みを統制していく。 ・受験対策の柱は英数国であるということ、英語を軸にした学習計画を立てるよう、全体で指導する。 ③各学期一人一冊は借りる。 ④国語科の指導に、学年として協力できることをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①平均家庭学習時間 5月平常時92分/日 6月平常時79分/日 3時間以上/日 5月8名(2.9%)、6月5名(1.8%) 2時間以上/日 5月24名(8.8%)、6月14名(5.1%) ②7月記述模試 3教科総合平均点偏差値50.2 3教科総合平均点偏差値60以上22名 平均点偏差値50以上129名 国語51.4 数学50.2 英語49.4 ③7月末現在251冊 	<ul style="list-style-type: none"> ①定期考査に対する取り組みの甘さ。 ・上位層の応用力が伸び悩んでいる。 ・英語を軸にした学習計画については、学年としての手立てであることを共通理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ホーム担任と連携を図って生徒の意識を向上させる。 ・高習熟クラスにおいては、標準以上の問題で小テストを行う。 ・正副担任、教科担当、クラブ顧問等、それぞれの立場から全員で進路指導に関わっていく。
		3年 <ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格者100名以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・総学で立てた学習計画の進捗管理を正副担任を中心に行うなど、自学自習の習慣の確立を促す。 ・面談、学年・進路指導集会等を効果的に実施するなど、計画的に学習に取り組み、最後まで努力を継続する集団づくりを促す。 ・隙間時間の有効活用を行う。 ・携帯・スマホなどの指導。 ・進路実現ノートを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【6月マーク模試結果】 5教科8(7)科目平均点偏差値文系45.9、理系45.3 平均点偏差値60.0以上 文系3名、理系7名 50.0以上 文系36名、理系19名 【7月記述模試結果】 3教科平均点偏差値 文系49.6、理系45.4 3教科平均点偏差値60.0以上文系16名、理系5名 50.0以上文系77名、理系17名 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎事項の定着と演習量の充実を図る。 ・適切な教材設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターに向けて、演習の中で問題の解法を身につけさせる。 ・2次試験への対応(補習・添削等)を引き続き実施する。 ・テキストについては少し易しいものを選び、中下位層の偏差値を上げるよう指導する。

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	今後の課題	対策	
特別活動 2と部活動 の充実	<p>・皆勤については、評価基準の見直しを図る必要がある。</p> <p>・評価基準に、生徒の適応支援の成否を測る指標を設定する必要がある。</p>	1年	<p>①皆勤</p> <p>②部活動加入率90%以上</p> <p>③体力運動能力テスト結果を全国平均並にする</p> <p>④学校適応100%</p> <p>⑤錬歩会参加率100% 完歩率95%</p>	<p>①④家庭、生徒サポート部との連携を密に早期の気づきと対応を図る。</p> <p>①③④⑤学校行事等とおして、ホームや学年の団結力を図る。</p>	<p>①皆勤者224名(79.7% 1学期末現在)</p> <p>②部活動加入率100%</p> <p>③8種目中男子で7種目、女子で6種目において全国平均値を上回った。過半数が全国平均を上回ったのは男子で7種目、女子で4種目である。</p> <p>④学校不適応の傾向が見られる生徒2名</p>	<p>④欠席が多い生徒への支援</p> <p>・学校不適応の防止指導を充実させる。</p>	<p>④家庭、生徒サポート部との連携を密にして、生徒の動向を把握する。</p> <p>・文化祭や遠足等を通じて、ホームや学年としての団結心を高める。</p>
		2年	<p>①皆勤</p> <p>②2年間の部活動継続率80%以上</p> <p>③体力運動能力テスト結果を全国平均並にする</p> <p>④錬歩会参加率100% 完歩率95%</p>	<p>①自己管理と家庭との連携。</p> <p>②③④学年集会、通信等で奨励していく。</p>	<p>①皆勤者179名(64.4% 1学期末現在)</p> <p>②部活動加入者269名(8月現在) 部活動継続率73.1%</p> <p>③8種目中男女とも5種目で全国平均を上回った。過半数が全国平均を上回ったのは男子で6種目、女子で4種目である。</p>	<p>①出欠不良の生徒への指導。</p>	<p>①家庭との連絡を中心におきながら、生徒サポート部等との連携を密にする。</p>
		3年	<p>①皆勤</p> <p>②部活動成績上位入賞</p>	<p>・目的意識を持ち、主体的に行動し、自己実現の達成に努める生徒を育成。</p> <p>・一年間皆勤の継続。</p> <p>・部活動で3年間の成果を発揮。</p> <p>・学校行事などにホーム・学年が一丸となって取り組む。</p>	<p>①皆勤者168名(61.8% 1学期末現在)</p> <p>②全国大会出場団体3、個人2</p>	<p>・部活動を引退した生徒に受験生としての意識化を図る。</p> <p>・部活動継続者に受験との両立を図らせる。</p> <p>・出席状況等の課題をもった生徒への対応。</p>	<p>・面談等を密に行うとともに、校内外の関係者との連携を密にし、適切な対応を行う。</p>
キャリア教育と地域連携の推進	<p>・植栽活動の見直しを図るとともに、新たな地域貢献活動を策定する。</p> <p>・WALKプランについては教員間でゴールイメージを共有し、逆算的に指導計画を策定する。</p> <p>・高大連携授業等の参加者数は一定定着してきたことから、参加者の変容を見てとる評価指標を設定する。</p>	1年	<p>①ボランティア活動への参加</p> <p>②地域と連携した防災活動への参加</p> <p>③WALKプラン自己評価4.0以上</p> <p>④高大連携授業等への参加</p> <p>⑤社会貢献意識の醸成60%以上</p>	<p>①②⑤ホームや学年を通じて、行事や清掃活動に積極的に参加するよう指導する。</p> <p>③WALKプランのねらいを明確にし、進路選択と連動させる。</p> <p>④高大連携授業、外部事業への積極的参加を促す。</p>	<p>①ボランティア活動等は昨年に比べて活動状況が悪い。</p> <p>②4/24防災避難訓練 「地震の様子を想像しながら真剣に訓練ができた(まあまあできた)」92%、「防災意識が高まった」70%</p> <p>③WALKプランでは日々の学習の意義や目標を持たせるために上級学校・職業調べ、職業懇談会を行った。職業懇談会を職業懇談会では、生徒の意欲・関心も高く、聴く態度も良かった。講師の感想も好意的であった。毎回の学習について、担任会でねらいを共有している。</p> <p>④クリエイティブ・自然科学概論参加者なし</p>	<p>①ボランティア活動等への参加が不十分である。</p> <p>②防災に対する家庭での取組が不十分である。防災講演会で巨大地震から命を守る知識を学び、家族に啓発するよう指導する。</p> <p>③2年生総学と調べ学習が重なっているPC室が空いていない。今回は1年生はPC室で実施してみたが、ホーム全員がやるには紙の資料だけでは学習を広げることが厳しかった。個々のニーズに応えるにはWeb検索も必要と感じた。</p> <p>④悪天候により、オープンキャンパスに参加できなかった。</p>	<p>①ボランティア活動等への積極的な参加を促す。</p> <p>③2学期も2年生と重なる時期があるので調整が必要。次年度からの新しい総学内容でも効果的な条件整備が重要である。</p> <p>④来年度、オープンキャンパスに参加するよう指導する。</p>
		2年	<p>①ボランティア活動への参加</p> <p>②地域と連携した防災活動への参加</p> <p>③WALKプラン自己評価4.0以上</p> <p>④高大連携授業等への参加</p> <p>⑤社会貢献意識の醸成70%以上</p>	<p>総合学習を中心に、いろいろな体験とおして自己を確立し、将来どんな立場で社会に貢献していくのか、進路指導と併せて考えさせる。</p>	<p>②4/24防災避難訓練 「地震の様子を想像しながら真剣に訓練ができた(まあまあできた)」92%、「防災意識が高まった」73.7%</p> <p>③上級学校の調べ学習を通して現在の自分の課題を確認し、将来について具体的に考える生徒が増えた。1学期末自己評価4.0。</p> <p>④自然科学概論6名、クリエイティブ前期3名、後期5名参加。</p>	<p>②防災については、1年生同様に家庭での備えが不十分である。防災LHでの正副担任の指導を通して、判断力を高め家族を守る力を身につける。</p> <p>③「進路について考えることができるようになった。」「目標が見つかった。」と自己評価している生徒もいるが、目標の持てない生徒には今の内容では厳しい。</p>	<p>③2学期の志望理由書作成、小論文学習に向けて、学年団で高校生活に目標を持たせるよう支援していきたい。また、正副担任、教科担当、クラブ顧問等それぞれの立場から全員で進路指導に関わっていく。</p>
		3年	<p>社会貢献意識の醸成75%以上</p>	<p>・地域の行事や一斉清掃などに積極的に参加するように促す。</p> <p>・WALKプランによる学びを、希望する進路実現と連動させる。</p>	<p>・年度当初は学年団及び進路指導部と連携して、「やらされる勉強から自分でやる勉強への転換」に力を入れて生徒の意識に働きかけた。「自学のススメ」のオリエンテーションに始まり、進路目標を明確にしてから、1週間の学習計画を立案、点検、修正を繰り返し行った。自分の活動を全てポートフォリオとして可視化させ、担任はそれを資料として必要に応じて面談などを行った。</p>	<p>・2学期は生徒の活動が分化されていくので、計画だけにとどまらず、自己の試験に向けた実践的な学習を取り入れていくことが必要になってくる。モチベーションを持続させていくことがテーマである。</p> <p>また、家庭での自学については自己評価が3.7となっている。自学を如何に進めさせるかが課題である。</p>	<p>・総学、LH、集会、面談等を活用し、生徒の進路実現が達成されるように対応する。</p>

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	今後の課題	対策
4 英語運用能力の向上と国際交流活動の推進	・一次試験の合格率を50%以上になるよう指導改善を図るとともに、啓発を行う。 ・コンテストで成果が得られるよう準備を進める必要がある。	1年 ①英検準2級 普通科50%以上取得 英語科100%取得 英検2級 英語科20%以上取得 ②各種コンテスト入賞 ③英語科における国際理解の推進	①1年生全員が英検を受験する。一次対策として過去問を整備し自主学習させる。二次対策として面接練習を実施する。 ②コンテストや各種プレゼン大会への出場を奨励し、出場者には個別指導を行う。 ③長期留学生をクラスに配置する。イングリッシュキャンプを行う。	①【2級】 英語科2名受験し合格者なし 【準2級】普通科11名受験し1名合格 英語科4名受験し4名合格 ③「国際理解フォーラム(異文化理解推進事業)へ普通科・英語科より10名参加	①英語力伸長に応じた適切な受験時期を指導する。	①第3回受験に向けて、合格できる英語力をつけるための指導を継続する。 ②コンテスト等に関心の高い生徒を個別に当たり、参加を促す。 ③特別講座等の案内だけでなく、講座内容や受講の効果なども添え、参加を促す。
		2年 ①英検準2級 普通科100%取得 英検2級 普通科8%以上取得 英語科50%以上取得 ②英語ディベート全国大会出場 ③英語科における国際理解の深化	①1年次の合格状況と照らし合わせながら、さらに受験を勧めていく。 ②ALTと協力してPEの授業や放課後の練習でディベートに取り組む。 ③GEIの授業で世界の様々な問題や文化について学ぶ。長期留学生をクラスに配置する。イギリス研修を行う。	①【2級】 普通科1名受験し合格者なし 英語科8名受験し3名合格 【準2級】普通科10名受験し2名合格 英語科3名受験し合格者なし ③「国際理解フォーラム(異文化理解推進事業)」へ普通科4名、英語科2名が参加。	①普通科生徒の準2級受験者が少ない。自発的かつ積極的に受験に挑む姿勢を醸成する。	①【普通科】第2回・第3回への受験の奨励、指導。 【英語科】授業や進学補習で英検問題を取り入れながら、受験意識の高揚と実際の合格率を上げていく。 ②【英語科】生徒が主体性を持った取り組みをするように、授業やテストを工夫する。 ③3年次になってからは参加が難しくなるので2年次での参加を奨励していく。
		3年 英検2級 普通科15%以上取得 英語科100%取得 英検準1級 3名取得	英語理解、PEIII、GEIIの授業で英語力を身に付け、目標達成を目指す。	【準1級】普通科1名受験し合格者なし 英語科10名受験し1名合格 【2級】普通科36名受験し5名合格 英語科12名受験し5名合格 【準2級】普通科20名受験し9名合格	定期考査や、入学試験準備のため受験者数が減少している。	最後まで英検を受験するよう奨励する。また、センター試験との共通点を強調することにより受験者増を図る。
5 学習環境整備	特になし。	①生徒の学習環境の整備・充実が常に図られている ②安心・安全な教育環境が整っている ③防災用品の充実・管理	①効果的な予算の執行を行う。 ②定期巡回により修繕必要箇所の早期発見に努める。 ③備蓄物保管場所の拡大に努める。	①できるだけ前倒しで執行するよう努めている。 ②早期発見には努めている。 ③備蓄物保管場所については、多量に配置する場所がない	①人的資源の少なさ ②予算要求が直ちに予算獲得にはつながらない。 ③既存の使える場所を整理する。	①限られた人員でできるだけ早期発注に努める。 ②予算のついたものから順次、1日1歩ずつでもこつこつ行う。 ③整理の可能な場所を教職員、生徒の協力を得て整理(例えば体育館北倉庫)する。
6 関係機関との連携・協力	・依然として、学校情報を目にしていない保護者が1割を超えて存在する。発信情報の充実や発信手段についても改善を図っていく。	①情報発信の拡充 ②PTA総会への保護者参加率の向上 ③中学校の生徒・教員及び地域住民が西高のよさを知っている	①中高連絡会を開催して、中学校へ西高校の取り組みを説明する。また、情報発信の主たる手段である学校案内を適切に作成していく。 ③体験入学を開催して、中学生に西高校をよく知ってもらう。また、メディア等も活用して学校行事等の案内を地域、中学校に向けて行う。	①「西高だより」はPTA広報部が主体的に取り組み、保護者の視点で学校での教育活動を発信している。 ②PTA総会参加率40%(昨年54%) ③学校ホームページのトピックスコーナーは少なくとも1回/週の更新が図られている。 ・中高連絡会参加者46名 ・高校説明会(私塾含む)実施52校 ・学校HPで英語科通信掲載	①「西高だより」についてはまだまだ認知されていない。 ②総会後の学年会にかかる時間が不足している。 ③効果が高まっているという実感が得られていない。	②日程について検討中である。 ③校門前の掲示板の活用頻度を高める。